

平成28年度 財務諸表

貸借対照表

行政コスト計算書

純資産変動計算書

資金収支計算書

岐阜県 高山市

目 次

高山市財務諸表について	1
一般会計等財務諸表	
貸借対照表	6
行政コスト計算書	8
純資産変動計算書	10
資金収支計算書	12
全体財務諸表	
貸借対照表	14
行政コスト計算書	15
純資産変動計算書	16
資金収支計算書	17
連結財務諸表	
貸借対照表	18
行政コスト計算書	19
純資産変動計算書	20
資金収支計算書	21
各財務諸表の勘定解説	22
財務諸表を活用した財政分析	25

高山市財務諸表について

高山市では、健全で持続可能な財政基盤の確立を図るとともに、高山市の財政状況をわかりやすく市民のみなさんに知っていただくため、決算に基づく財務諸表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）を作成・公開しています。

高山市の財務諸表は、平成27年度までは「総務省方式改訂モデル」に基づき作成・公開していましたが、平成28年度決算からは総務省が示す「統一的な基準」により、作成・公開することとしています。

従いまして、平成27年度までの財務諸表と平成28年度以降の財務諸表は算出方法が異なりますのでご注意ください。

これまで採用していた総務省方式改訂モデルと統一的な基準との比較は主に次のとおりです。

	総務省方式改訂モデル (平成27年度まで)	統一的な基準 (平成28年度から)
①財務書類の作成方法	地方財政状況調査（決算統計）のデータを活用し財務書類を作成	個々の支出伝票を複式仕訳し財務書類を作成
②固定資産台帳の整備	地方財政状況調査（決算統計）のデータから固定資産価格を推計	固定資産台帳の整備により個々の資産情報を把握
③比較可能性の確保	基準モデル、総務省方式改訂モデル、その他の方式といった複数の方式が存在	統一的な基準による財務書類等によって団体間での比較可能性を確保

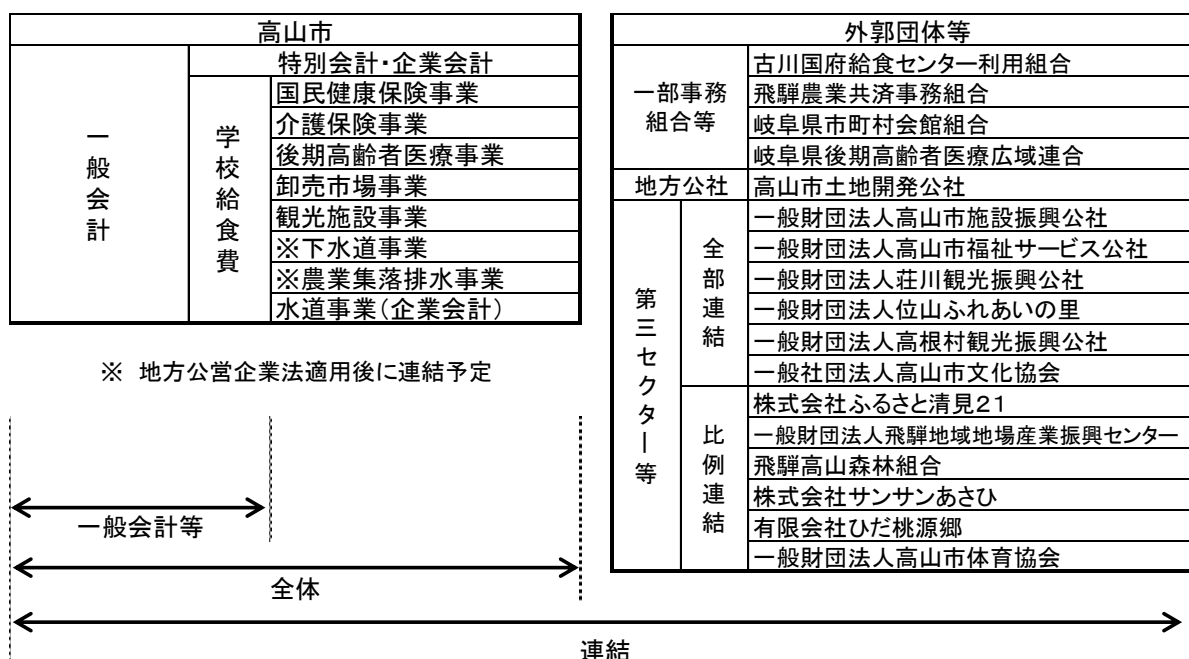
また、統一的な基準では、

- ・ 一般会計と学校給食費特別会計で構成する「一般会計等」
- ・ 上記の「一般会計等」にその他の特別会計、企業会計を含めた「全体」
- ・ さらに、一部事務組合や出資団体などの外郭団体を含めた「連結」

の3種類の財務諸表を公開することとしています。

ただし、下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計については、平成32年度までに地方公営企業法の法適用化に向けて準備を進めていることから、移行後に連結することとしています。

【対象となる会計・団体のイメージ】



なお、財務書類ごとの主な変更点は次のとおりです。

1) 貸借対照表

- ・資産の部の区分変更 … 公共資産・投資等・流動資産 → 固定資産・流動資産
- ・勘定科目の見直し … 行政目的別 → 性質別
- ・償却資産の表示方法の見直し … 直接法 → 間接法（減価償却累計額の明示）
- ・純資産の部の内訳の簡略化
- ・固定資産台帳の整備による資産の減少

統一的な基準で作成した前年度末（平成27年度）総資産額は2,375億3千万円となり、これまでの財務諸表（総務省方式改訂モデル、平成27年度決算）と比べ、549億1千万円少なくなっています。

これは、資産の価値を地方財政状況調査（いわゆる決算統計）上の分類によるものから資産毎の台帳整備（固定資産台帳）に変更したことにより、これまで資産として算定されていた人件費や事務費などの整備事業に付随する経費の減少、時価評価などによる取得価格の見直し、耐用年数の変更などによるものです。

2) 行政コスト計算書

- ・区分変更 … 経常行政コスト・経常収益 → 経常費用・経常収益・臨時損失・臨時費用
- ・性質別・目的別の表示から性質別のみの表示に変更

3) 純資産変動計算書

- ・内訳の簡略化（財源情報の省略）

4) 資金収支計算書

- ・区分変更 … 業務活動収支・投資活動収支・財務活動収支に変更
- ・活動区分別の財源表示に変更（例：地方債は財務活動収支に集約）

5) 連結対象団体

- ・第三セクター等の連結対象団体の変更

出資による権利に計上している団体のうち市の出資割合50%以上→25%以上の団体を対象

※ 出資割合50%以上の団体は全部連結、

出資割合50%未満25%以上の団体は出資割合に応じ比例連結

平成28年度 一般会計等 貸借対照表

概要版

行政サービスを提供するために保有している資産(財産)と、その資産をどのような財源で賄ってきたかを表しています。

【資産の部】	【負債の部】
<p style="text-align: center;">行政サービスを提供するために保有している資産(財産)</p> <p>固定資産 2,072億3千万円</p> <p>有形固定資産 1,759億2千万円 庁舎、学校などの事業用資産や道路、橋などのインフラ資産など建設的な事業にこれまでに使われたお金の総額です。建物や工作物などの整備費はその耐用年数により減価償却をしています。</p> <p>無形固定資産 4億9千万円 地上権や借地権、水利権など形の無い資産の総額です。</p> <p>投資その他の資産 308億2千万円 関係団体への出資金や夢・まちづくり基金、福祉健康基金など特定目的の基金(貯金)などの総額です。</p> <p>流動資産 279億円</p> <p>現金、すぐに現金化することができる基金(貯金)、市税など市に納めてもらうお金のうち、まだ収入されていないものなどの総額です。</p>	<p style="text-align: center;">将来の世代が負担する金額</p> <p>借入金(市債) 294億1千万円 これまでに学校や道路などを建設するための財源として国や銀行から借りたお金(借金)の残高です。</p> <p>引当金 79億7千万円 年度末に市職員全員が普通退職したと想定した場合に必要な退職手当など、将来発生することが見込まれる費用の総額です。</p> <p>未払金等 26億4千万円</p> <p style="text-align: center;">負債合計 400億2千万円</p>
	<p style="text-align: center;">【純資産の部】</p> <p style="text-align: center;">これまでの世代が負担した金額</p> <p>これまでに学校や道路などを建設するために使われたお金のうち、国や県からの補助金、税金などのお金の総額です。</p> <p style="text-align: center;">純資産合計 1,951億1千万円</p>
<p>計 2,351億3千万円</p>	<p>計 2,351億3千万円</p>

数値は端数処理をしています。

市民1人あたりの貸借対照表

[平成29年3月31日現在人口 89,265人]

固定資産	有形固定資産	197.6万円
	無形固定資産	
	投資その他の資産	34.5万円
	流動資産	31.3万円

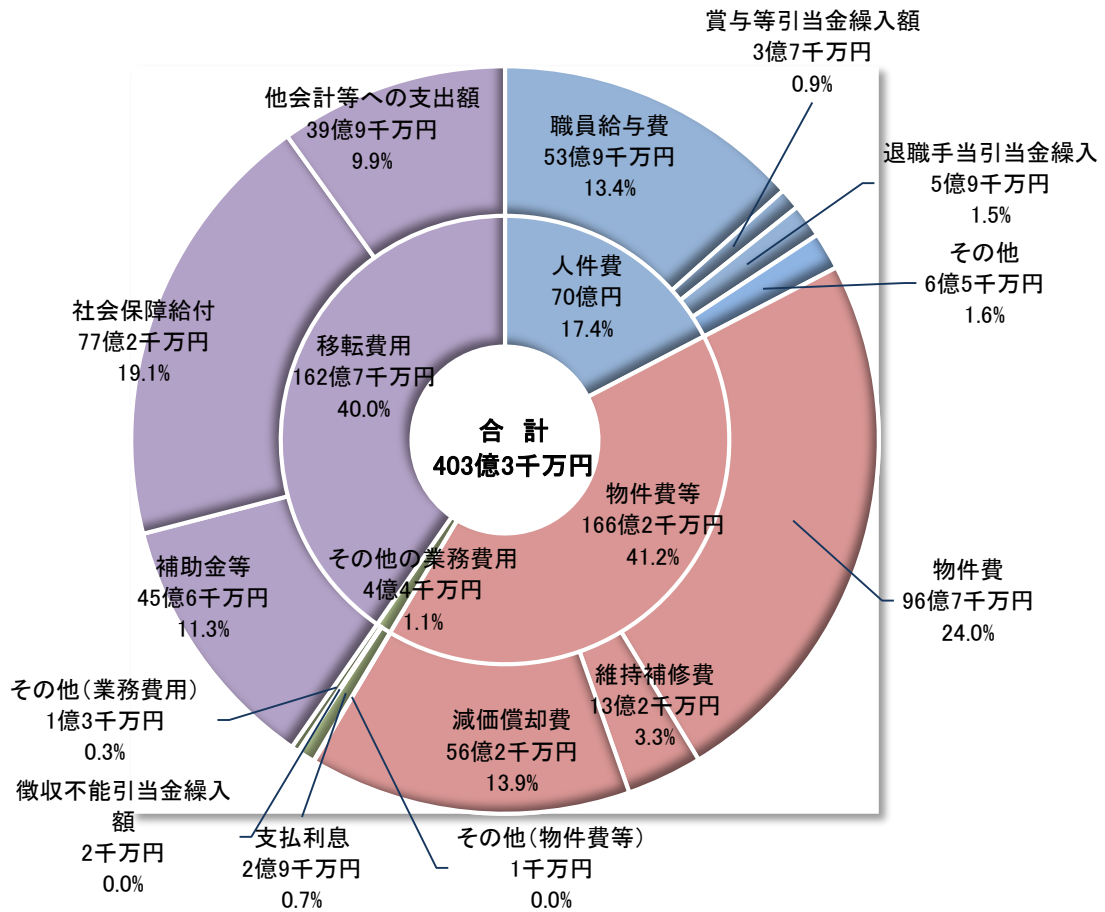
資産合計 263.4万円

負債	44.8万円
純資産	218.6万円

負債及び純資産合計 263.4万円

資産の形成につながらない行政サービスに要した費用(行政コスト)を性質別に表しています。

性質別の行政コスト



数値は端数処理をしています。

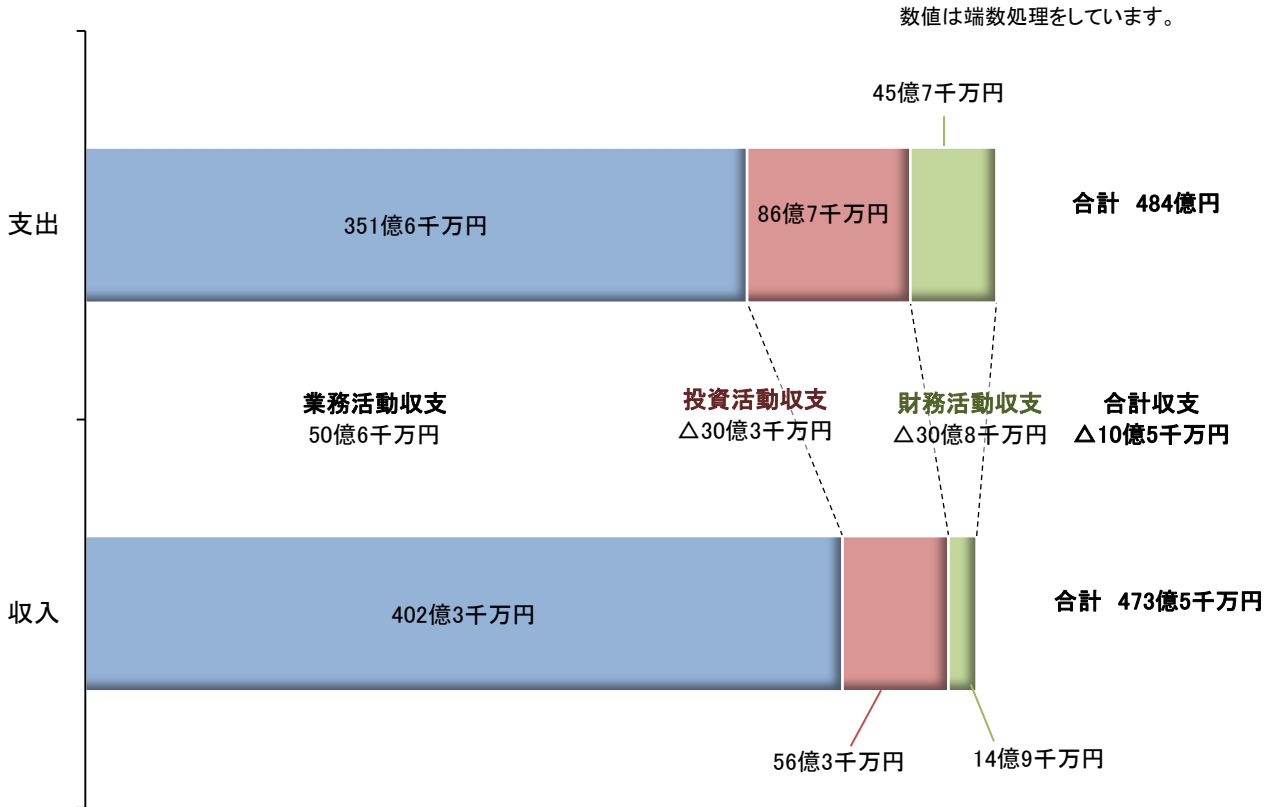
市民1人あたりの性質別の行政コスト [平成29年3月31日現在人口 89,265人]

業務費用	人件費 (人にかかるコスト)	78,451 円
	物件費等 (物にかかるコスト)	186,131 円
	その他業務費用(その他のコスト)	4,933 円
移転費用(移転支出的なコスト)		182,263 円
合計		451,778 円

平成28年度 高山市資金収支計算書

概要版

1年間の現金の動きを3つの活動に区分して表しています。



- 業務活動収支** 人件費や物件費、社会保障給付などの支出と市税や地方交付税などの収入
- 投資活動収支** 学校、道路などの整備や出資、基金への積立てなど資産形成にかかる支出と国・県の補助金、基金の取崩しなどの収入
- 財務活動収支** 借金の返済と新たな借入れによる収入

市民1人あたりの資金収支計算書

[平成29年3月31日現在人口 89,265人]

	支 出	収 入	収 支
業務活動収支	393,945 円	450,651 円	56,706 円
投資活動収支	97,078 円	63,101 円	△33,977 円
財務活動収支	51,196 円	16,668 円	△34,528 円
合 計	542,219 円	530,420 円	△11,799 円

一般会計等 財務諸表

対象となる会計

一般会計 学校給食費特別会計

貸借対照表

地方自治体の経理は、年度内の収入と支出を単純に差し引きする単式簿記の方法であり、取得した資産についての減価償却など資産評価的な経理は行われていません。そのため、資産形成の内容、現在の資産価値などがわからない状態でした。

貸借対照表（BS）は、資産形成とその財源（市債など）の状況を明らかにすることが可能であり、投資に対する効果などを評価することにより、長期的な財政運営の効率化を図る上で重要な指標となっています。

平成28年度の一般会計等 貸借対照表から…

これまでに高山市では、2,351億3千万円の資産を形成しています。財源の内訳として1,951億1千万円は、これまでの世代が負担（国県補助金含む）したもので既に支払を済ませており、残り400億2千万円は、将来世代の負担として今後に債務の支払いをしていくこととなります。

① 有形固定資産の整備状況

資産の2,351億3千万円のうち、1,759億2千万円が土地、建物等の有形固定資産となっています。前年度と比較して14億円減となっていますが、これは道路整備事業19億7千万円、駅周辺土地地区画整理事業15億9千万円、県道の市道編入5億円などにより総額47億9千万円の資産が増加しましたが、減価償却により56億2千万円、久々野支所庁舎の解体や普通財産の売却など除却・売却により5億円、総額62億8千万円の資産が減少したことによるものです。

② 将来の支出に対する貯蓄状況

資産形成に係る市債の返済や将来の支出に充てる貯蓄となるのが基金の積立残高で、固定資産と流動資産の基金をあわせて529億3千万円あり、前年度と比較して20億円増加しています。

それに対して借金は、地方債と翌年度償還予定地方債を合わせた294億1千万円あり、前年度と比較して30億8千万円減少しています。このうち249億7千万円については、後年度に地方交付税で措置されることが見込まれているものであり、実際に高山市が負担する割合は低くなります。

③ 市税等の回収状況

未回収の市税等は、投資等の長期延滞債権（1年以上回収されていない債権）と流動資産の未収金（1年未満の債権）に計上しています。長期延滞債権と未収金の主な内容は、市税の未回収額10億4千万円で前年度に比べ6千万円減少しました。今後も早期回収に努めていきます。

一般会計等 貸借対照表

(平成29年 3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	207,231,915	固定負債	33,327,912
有形固定資産	175,926,535	地方債	25,001,286
事業用資産	95,710,368	長期未払金	1,220,867
土地	53,364,908	退職手当引当金	7,105,759
立木竹	89,728	損失補償等引当金	-
建物	103,142,184	その他	-
建物減価償却累計額	△ 62,828,128	流動負債	6,698,353
工作物	6,257,660	1年内償還予定地方債	4,408,365
工作物減価償却累計額	△ 4,406,213	未払金	1,141,147
建設仮勘定	90,231	未払費用	-
インフラ資産	78,465,499	前受金	-
土地	1,605,990	前受収益	-
建物	-	賞与等引当金	373,367
建物減価償却累計額	-	預り金	245,473
工作物	184,480,104	その他	530,000
工作物減価償却累計額	△ 108,543,700	負債合計	40,026,265
建設仮勘定	923,105	【純資産の部】	
物品	6,125,748	固定資産等形成分	231,119,672
物品減価償却累計額	△ 4,375,080	余剰分（不足分）	△ 36,011,084
無形固定資産	488,631	他団体出資分	0
ソフトウェア	-		
その他	488,631		
投資その他の資産	30,816,749		
投資及び出資金	1,119,502		
有価証券	216,439		
出資金	903,064		
その他	-		
投資損失引当金	△ 107,767		
長期延滞債権	944,596		
長期貸付金	-		
基金	29,096,286		
減債基金	1,371,112		
その他	27,725,174		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 235,868		
流動資産	27,902,938		
現金預金	3,190,482		
未収金	183,738		
短期貸付金	-		
基金	23,837,467		
財政調整基金	19,566,745		
減債基金	4,270,722		
棚卸資産	651,251		
その他	40,000		
徴収不能引当金	-		
資産合計	235,134,853	純資産合計	195,108,588
		負債及び純資産合計	235,134,853

※ 千円単位での表示のため、端数処理（四捨五入）により計などが合わない場合があります。

行政コスト計算書

貸借対照表が自治体の資産、負債等といった資産形成の状況を明らかにするものに対して、人的サービス、給付サービスといった行政サービスの状況を明らかにするための指標となるのが行政コスト計算書（PL）です。民間企業における「損益計算書」にあたります。

この行政コストは、現金の支出だけでなく、減価償却費、賞与等や退職手当引当金繰入額、徴収不能引当金繰入額といった非現金支出を含めることにより、コスト全体が把握できることとなります。現金支出のみに着目した、予算、決算時の議論、分析は、ともすれば資産形成に要する費用の多少に向けられがちですが、行政コストを明確に把握することで、行政活動の効率性を検討することができれば、将来の有効活用を含めた長期的なコスト意識の醸成につながると考えます。

平成28年度の一般会計等 行政コスト計算書から…

① 経常費用

経常費用は、毎年度経常的に発生するものをいい、大きく次の4つに分類されます。

- ・人件費（人にかかるコスト）
- ・物件費等（物にかかるコスト）
- ・その他の業務費用（その他のコスト）
- ・移転費用（移転支出的なコスト）

経常費用の総額は403億3千万円で、性質別では、「物件費等（物にかかるコスト）」が166億2千万円で最も多く、次いで「移転費用（移転支出的なコスト）」が162億7千万円となっており、あわせて全体の81.5%を占めています。

② 経常収益

経常収益は、使用料や手数料、その他として財産運用収入や預金利子などの諸収入のことで、総額は20億8千万円となっています。

経常収益の額の経常費用に対する比率、いわゆる受益者負担割合は5.2%となっています。

③ 純経常行政コスト

経常費用から経常収益を差し引いた純経常行政コストは、382億4千万円となっています。

経常収益には税収を含めないため大幅なコスト超過になっていますが、純経常行政コストは、市税、地方譲与税、地方交付税といった一般財源で賄うことになります。

④ 純行政コスト

③の純経常行政コストに、臨時損失、臨時収益を加えたものが純行政コストで、386億7千万円となっています。

臨時損失・臨時収益には、災害復旧事業にかかる費用のほか、土地や建物などの資産の売却・譲渡や除却による損益、また投資損失引当金繰入額などがあります。平成27年度までの財務諸表（総務省方式改訂モデル）では、純資産変動計算書の中に計上されていました。

一般会計等 行政コスト計算書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	40,327,947
業務費用	24,058,291
人件費	7,002,940
職員給与費	5,390,123
賞与等引当金繰入額	373,367
退職手当引当金繰入額	594,140
その他	645,309
物件費等	16,615,018
物件費	9,663,145
維持補修費	1,321,361
減価償却費	5,620,192
その他	10,321
その他の業務費用	440,333
支払利息	291,261
徴収不能引当金繰入額	16,592
その他	132,481
移転費用	16,269,655
補助金等	4,494,356
社会保障給付	7,724,300
他会計への繰出金	3,988,265
その他	62,735
経常収益	2,084,439
使用料及び手数料	527,960
その他	1,556,479
純経常行政コスト	38,243,508
臨時損失	508,462
災害復旧事業費	63,326
資産除売却損	420,802
投資損失引当金繰入額	17,483
損失補償等引当金繰入額	-
その他	6,851
臨時利益	81,122
資産売却益	81,122
その他	-
純行政コスト	38,670,847

※ 千円単位での表示のため、端数処理（四捨五入）により計などが合わない場合があります。

純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部の各勘定が会計年度中にどのように変動したかを表すのが純資産変動計算書（NW）です。

資産を形成するために使われたお金のうち、これまでの世代が負担してきた部分が増加したのか、あるいは減少したのかがわかります。

平成28年度の一般会計等 純資産計算書から…

① 純行政コストについて

純行政コスト386億7千万円に対し、税収等（市税、地方譲与税、地方交付税等の一般財源、分担金・負担金、寄附金など）と国や県からの補助金等の収入の合計が412億1千万円となっています。したがって本年度差額は、25億4千万円となり財源超過であることがわかります。

この差額がマイナスとなった場合は、当年度の行政サービスにかかったコスト（純行政コスト）が当年度の財源（税収等、国県等補助金）で賄えていなかったことを表し、「将来の世代」に負担額を先送りしたことを示します。

② 固定資産等の変動

ここでは、貸借対照表の固定資産等の変化について詳しく計上しています。

今年度は、有形固定資産等で42億8千万円、貸付金や基金等で43億9千万円、総計86億7千万円を支出し、資産形成をしました。それに対し、減価償却、除却や売却、基金の取崩しなどにより、合計85億1千万円資産が減少しました。

③ 資産評価差額、無償所管替等

資産評価差額は、時価のある有価証券や売却を予定している普通財産の評価替えなどによる評価差額で、1億6千万円の減少となっています。

無償所管替等は、土地などの寄附になどにより5億1千万円の増加で、県道の市道編入（市道名張上切線）による増加が主な要因です。

以上により、1年間で28億9千万円の純資産が増加しました。

一般会計等 純資産変動計算書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	192,222,377	230,618,524	△ 38,396,147
純行政コスト (△)	38,670,847		38,670,847
財源	41,207,730		41,207,730
税収等	31,128,739		31,128,739
国県等補助金	10,078,991		10,078,991
本年度差額	2,536,883		2,536,883
固定資産等の変動 (内部変動)		150,853	△ 150,853
有形固定資産等の増加		4,279,864	△ 4,279,864
有形固定資産等の減少		△ 6,123,221	6,123,221
貸付金・基金等の増加		4,385,787	△ 4,385,787
貸付金・基金等の減少		△ 2,391,578	2,391,578
資産評価差額	△ 158,310	△ 158,310	
無償所管換等	508,590	508,590	
その他	△ 952	15	△ 967
本年度純資産変動額	2,886,211	501,148	2,385,063
本年度末純資産残高	195,108,588	231,119,672	△ 36,011,084

※ 千円単位での表示のため、端数処理 (四捨五入) により計などが合わない場合があります。

資金収支計算書

歳入歳出決算書は、款項目別に表示され、資本取引と損益取引の区分がない現金の出入りの情報が中心であるため、資産や負債といったストック情報につながらないなど、資金収支の状況を明確にできていません。

この欠陥を補完するのが資金収支計算書（CF）です。業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支の3区分により表示することにより、行政活動別の資金収支の状況がわかります。

平成28年度の一般会計等 資金収支計算書から…

① 業務活動収支について

業務活動収支では、行政サービスをおこなう中で毎年度継続的に収支されるものを計上しています。

業務支出の合計は351億円で、主な経費としては物件費等支出が100億8千万円（28.7%）、扶助費などの社会保障給付支出が77億2千万円（22.0%）、補助金等支出が59億6千万円（17.0%）となっています。

業務収入は402億円で、税金等（市税、地方譲与税、地方交付税といった一般財源や分担金、負担金、寄附金）が316億5千万円（78.7%）で主となっています。

災害復旧事業などの臨時支出、収入を含め業務活動収支は50億6千万円の収入超過となっており、公共資産整備や地方債償還に充当されることになります。

② 投資活動収支について

投資活動収支では、公共施設の整備事業や基金への積立て、投資・出資などの収支されるもの計上しています。

支出合計は86億7千万円で、公共施設等の整備に42億8千万円（49.4%）、基金への積立て31億円（35.8%）をおこないました。

収入として国や県からの補助金など56億3千万円ありましたが、収支は30億3千万円の財源不足となっています。

③ 財務活動収支の部

財務活動収支では、借金（地方債）の借入れや返済などの収支を計上しています。

支出は地方債の元金返済で45億7千万円、歳入は地方債の新たな借入れにより14億9千万円、収支では30億8千万円のマイナスとなりました。

財務活動収支のマイナスは、市の新たな借金よりも返済が多いことを表し、将来の世代への負担が減少したこととなります。

なお、投資活動収支、財務活動収支の財源の不足額は業務活動収支や期首歳計現金残高で賅われたこととなります。

以上により、1年間で10億5千万円の歳計現金が減少し、期末の歳計現金残高は29億4千万円、歳計外を加えた現金預金残高は31億9千万円となりました。

一般会計等 資金収支計算書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	35,102,171
業務費用支出	17,364,211
人件費支出	6,886,688
物件費等支出	10,083,047
支払利息支出	291,261
その他の支出	103,215
移転費用支出	17,737,959
補助金等支出	5,962,660
社会保障給付支出	7,724,300
他会計への繰出支出	3,988,265
その他の支出	62,735
業務収入	40,200,177
税金等収入	31,646,395
国県等補助金収入	6,489,142
使用料及び手数料収入	531,495
その他の収入	1,533,145
臨時支出	63,326
災害復旧事業費支出	63,326
その他の支出	-
臨時収入	27,207
業務活動収支	5,061,887
【投資活動収支】	
投資活動支出	8,665,651
公共施設等整備費支出	4,279,864
基金積立金支出	3,098,657
投資及び出資金支出	130
貸付金支出	1,287,000
その他の支出	-
投資活動収入	5,632,680
国県等補助金収入	3,064,252
基金取崩収入	1,096,977
貸付金元金回収収入	1,287,750
資産売却収入	161,449
その他の収入	22,252
投資活動収支	△ 3,032,972
【財務活動収支】	
財務活動支出	4,570,009
地方債償還支出	4,570,009
その他の支出	-
財務活動収入	1,487,900
地方債発行収入	1,487,900
その他の収入	-
財務活動収支	△ 3,082,109
本年度資金収支額	△ 1,053,193
前年度末資金残高	3,998,202
本年度末資金残高	2,945,009
前年度末歳計外現金残高	225,493
本年度歳計外現金増減額	19,980
本年度末歳計外現金残高	245,473
本年度末現金預金残高	3,190,482

※ 千円単位での表示のため、端数処理（四捨五入）により計などが合わない場合があります。

全体 財務諸表

対象となる会計

一般会計
学校給食費特別会計
国民健康保険事業特別会計 事業勘定
国民健康保険事業特別会計 直営診療施設勘定
地方卸売市場特別会計
介護保険事業特別会計
観光施設事業特別会計
後期高齢者医療事業特別会計
水道事業会計（企業会計）

※ 下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計は、
地方公営企業法適用後に連結を予定しています。

全体 貸借対照表

(平成29年 3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	230,347,154	固定負債	44,470,802
有形固定資産	198,984,799	地方債	31,536,410
事業用資産	97,445,104	長期未払金	1,220,867
土地	54,831,201	退職手当引当金	7,105,759
立木竹	89,728	損失補償等引当金	-
建物	105,301,246	その他	4,607,766
建物減価償却累計額	△ 64,718,996	流動負債	7,571,621
工作物	6,257,908	1年内償還予定地方債	4,885,014
工作物減価償却累計額	△ 4,406,213	未払金	1,501,554
建設仮勘定	90,231	未払費用	-
インフラ資産	98,208,513	前受金	-
土地	2,791,011	前受収益	-
建物	1,382,759	賞与等引当金	408,576
建物減価償却累計額	△ 687,622	預り金	245,473
工作物	218,001,754	その他	531,004
工作物減価償却累計額	△ 124,331,846		
建設仮勘定	1,052,458	負債合計	52,042,423
物品	12,551,825	【純資産の部】	
物品減価償却累計額	△ 9,220,643	固定資産等形成分	254,952,269
無形固定資産	491,022	余剰分（不足分）	△ 44,487,155
ソフトウェア	-	他団体出資分	0
その他	491,022		
投資その他の資産	30,871,337		
投資及び出資金	847,923		
有価証券	216,439		
出資金	631,485		
その他	-		
投資損失引当金	△ 107,767		
長期延滞債権	1,150,803		
長期貸付金	-		
基金	29,295,554		
減債基金	1,371,112		
その他	27,924,442		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 315,176		
流動資産	32,160,380		
現金預金	6,197,933		
未収金	590,541		
短期貸付金	-		
基金	24,673,007		
財政調整基金	20,402,285		
減債基金	4,270,722		
棚卸資産	659,965		
その他	41,000		
徴収不能引当金	△ 2,066		
資産合計	262,507,537	純資産合計	210,465,114
		負債及び純資産合計	262,507,537

※ 千円単位での表示のため、端数処理（四捨五入）により計などが合わない場合があります。

全体 行政コスト計算書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	60,851,341
業務費用	27,187,802
人件費	7,602,861
職員給与費	5,901,063
賞与等引当金繰入額	404,534
退職手当引当金繰入額	594,140
その他	703,123
物件費等	18,714,173
物件費	10,802,337
維持補修費	1,401,051
減価償却費	6,500,290
その他	10,496
その他の業務費用	870,768
支払利息	438,602
徴収不能引当金繰入額	65,821
その他	366,346
移転費用	33,663,538
補助金等	9,781,556
社会保障給付	22,224,526
他会計への繰出金	1,591,000
その他	66,457
経常収益	4,099,474
使用料及び手数料	2,309,022
その他	1,790,451
純経常行政コスト	56,751,867
臨時損失	567,290
災害復旧事業費	63,326
資産除売却損	420,802
投資損失引当金繰入額	17,483
損失補償等引当金繰入額	-
その他	65,679
臨時利益	85,122
資産売却益	81,122
その他	4,000
純行政コスト	57,234,035

※ 千円単位での表示のため、端数処理（四捨五入）により計などが合わない場合があります。

全体 純資産変動計算書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	207,315,008	254,421,810	△ 47,106,802
純行政コスト (△)	57,234,035		57,234,035
財源	60,034,813		60,034,813
税込等	43,995,993		43,995,993
国県等補助金	16,038,820		16,038,820
本年度差額	2,800,778		2,800,778
固定資産等の変動 (内部変動)		180,164	△ 180,164
有形固定資産等の増加		5,709,245	△ 5,709,245
有形固定資産等の減少		△ 7,528,897	7,528,897
貸付金・基金等の増加		4,391,394	△ 4,391,394
貸付金・基金等の減少		△ 2,391,578	2,391,578
資産評価差額	△ 158,310	△ 158,310	
無償所管換等	508,590	508,590	
その他	△ 952	15	△ 967
本年度純資産変動額	3,150,106	530,459	2,619,647
本年度末純資産残高	210,465,114	254,952,269	△ 44,487,155

※ 千円単位での表示のため、端数処理 (四捨五入) により計などが合わない場合があります。

全体 資金収支計算書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	54,763,150
業務費用支出	19,629,710
人件費支出	7,476,786
物件費等支出	11,340,442
支払利息支出	438,602
その他の支出	373,881
移転費用支出	35,133,439
補助金等支出	11,249,749
社会保障給付支出	22,224,526
他会計への繰出支出	1,591,000
その他の支出	68,164
業務収入	60,970,836
税金等収入	44,489,536
国県等補助金収入	12,265,727
使用料及び手数料収入	2,453,092
その他の収入	1,762,482
臨時支出	63,326
災害復旧事業費支出	63,326
その他の支出	-
臨時収入	27,207
業務活動収支	6,171,568
【投資活動収支】	
投資活動支出	9,569,620
公共施設等整備費支出	5,178,226
基金積立金支出	3,104,264
投資及び出資金支出	130
貸付金支出	1,287,000
その他の支出	-
投資活動収入	5,671,154
国県等補助金収入	3,066,821
基金取崩収入	1,096,977
貸付金元金回収収入	1,287,750
資産売却収入	161,449
その他の収入	58,157
投資活動収支	△ 3,898,466
【財務活動収支】	
財務活動支出	5,066,544
地方債償還支出	5,066,544
その他の支出	-
財務活動収入	1,787,900
地方債発行収入	1,787,900
その他の収入	-
財務活動収支	△ 3,278,644
本年度資金収支額	△ 1,005,542
前年度末資金残高	6,958,003
本年度末資金残高	5,952,460

前年度末歳計外現金残高	225,493
本年度歳計外現金増減額	19,980
本年度末歳計外現金残高	245,473
本年度末現金預金残高	6,197,933

※ 千円単位での表示のため、端数処理（四捨五入）により計などが合わない場合があります。

連結 財務諸表

対象となる会計

一般会計、学校給食費特別会計		全体 財務諸表	
国民健康保険事業特別会計 事業勘定・ 直営診療施設勘定 地方卸売市場特別会計、 介護保険事業特別会計 観光施設事業特別会計、 後期高齢者医療事業特別会計 水道事業会計（企業会計）			
一部事務組合・広域連合 ※（ ）は市の負担割合			
古川国府給食センター利用組合	（ 34.96%）		
飛騨農業共済事務組合	（ 54.25%）	連結 財務諸表	
岐阜県市町村会館組合	（ 5.32%）		
岐阜県後期高齢者医療広域連合	（ 4.51%）		
地方公社 高山市土地開発公社			
第三セクター等 ※（ ）は市の出資割合			
全部連結	一般財団法人 高山市施設振興公社		（100.00%）
	一般財団法人 高山市福祉サービス公社		（100.00%）
	一般財団法人 荘川観光振興公社		（100.00%）
	一般財団法人 位山ふれあいの里		（100.00%）
	一般財団法人 高根村観光振興公社		（100.00%）
	一般社団法人 高山市文化協会		（ 50.00%）
比例連結	株式会社 ふるさと清見21		（ 42.55%）
	一般財団法人飛騨地域地場産業振興センター		（ 27.50%）
	飛騨高山森林組合	（ 31.74%）	
	株式会社 サンサンあさひ	（ 48.61%）	
	有限会社 ひだ桃源郷	（ 48.75%）	
	一般財団法人 高山市体育協会	（ 38.27%）	

※ 一部事務組合・広域連合は、規約に基づく当市の負担割合等により比例連結しています。

※ 第三セクター等は、出資による権利に計上している団体のうち、市の出資割合が25%以上の団体を連結しています。出資割合が50%以上の団体は全部連結、50%未満の団体は出資割合により比例連結をしています。

連結 貸借対照表

(平成29年 3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	231,309,259	固定負債	48,000,651
有形固定資産	199,615,402	地方債	34,327,609
事業用資産	98,015,223	長期未払金	1,227,098
土地	55,147,853	退職手当引当金	7,630,520
立木竹	137,464	損失補償等引当金	-
建物	105,777,946	その他	4,815,424
建物減価償却累計額	△ 65,050,170	流動負債	8,026,619
工作物	6,562,980	1年内償還予定地方債	4,966,170
工作物減価償却累計額	△ 4,651,081	未払金	1,797,900
船舶	165	未払費用	27,589
船舶減価償却累計額	△ 165	前受金	2,526
建設仮勘定	90,231	前受収益	-
インフラ資産	98,208,513	賞与等引当金	417,641
土地	2,791,011	預り金	277,393
建物	1,382,759	その他	537,398
建物減価償却累計額	△ 687,622	負債合計	56,027,270
工作物	218,001,754	【純資産の部】	
工作物減価償却累計額	△ 124,331,846	固定資産等形成分	258,494,069
建設仮勘定	1,052,458	余剰分(不足分)	△ 46,824,097
物品	12,952,447	他団体出資分	20,000
物品減価償却累計額	△ 9,560,781		
無形固定資産	499,571		
ソフトウェア	5,202		
その他	494,369		
投資その他の資産	31,194,286		
投資及び出資金	348,273		
有価証券	218,036		
出資金	127,445		
その他	2,792		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	1,151,032		
長期貸付金	-		
基金	29,998,042		
減債基金	1,371,112		
その他	28,626,930		
その他	12,130		
徴収不能引当金	△ 315,191		
流動資産	36,407,983		
現金預金	7,310,238		
未収金	1,023,150		
短期貸付金	78		
基金	24,676,236		
財政調整基金	20,405,514		
減債基金	4,270,722		
棚卸資産	3,344,338		
その他	59,132		
徴収不能引当金	△ 5,188		
資産合計	267,717,242	純資産合計	211,689,972
		負債及び純資産合計	267,717,242

※ 千円単位での表示のため、端数処理(四捨五入)により計などが合わない場合があります。

連結 行政コスト計算書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	72,795,789
業務費用	30,991,764
人件費	8,705,245
職員給与費	6,804,765
賞与等引当金繰入額	419,127
退職手当引当金繰入額	649,048
その他	832,306
物件費等	21,129,039
物件費	12,412,233
維持補修費	1,439,860
減価償却費	6,557,226
その他	719,721
その他の業務費用	1,157,479
支払利息	442,068
徴収不能引当金繰入額	66,264
その他	649,146
移転費用	41,804,026
補助金等	7,668,901
社会保障給付	32,477,648
他会計への繰出金	1,591,000
その他	66,477
経常収益	7,444,645
使用料及び手数料	2,533,981
その他	4,910,664
純経常行政コスト	65,351,145
臨時損失	569,582
災害復旧事業費	63,326
資産除売却損	421,021
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	85,235
臨時利益	104,491
資産売却益	82,231
その他	22,261
純行政コスト	65,816,236

※ 千円単位での表示のため、端数処理（四捨五入）により計などが合わない場合があります。

連結 純資産変動計算書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体 出資等分
前年度末純資産残高	208,445,355	258,209,575	△ 49,784,219	20,000
純行政コスト (△)	65,816,236		65,816,236	-
財源	68,701,751		68,701,751	-
税収等	48,329,703		48,329,703	-
国県等補助金	20,372,048		20,372,048	-
本年度差額	2,885,515		2,885,515	0
固定資産等の変動 (内部変動)		△ 75,574	75,574	
有形固定資産等の増加		6,350,350	△ 6,350,350	
有形固定資産等の減少		△ 8,426,689	8,426,689	
貸付金・基金等の増加		4,453,763	△ 4,453,763	
貸付金・基金等の減少		△ 2,452,998	2,452,998	
資産評価差額	△ 158,310	△ 158,310		
無償所管換等	508,590	508,590		
他団体出資等分の増	-			-
他団体出資等分の減	-			-
比例連結割合変更に伴う差額	-			-
その他	8,822	9,789	△ 967	
本年度純資産変動額	3,244,617	284,495	2,960,122	0
本年度末純資産残高	211,689,972	258,494,069	△ 46,824,097	20,000

※ 千円単位での表示のため、端数処理 (四捨五入) により計などが合わない場合があります。

連結 資金収支計算書

自 平成28年 4月 1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	66,279,428
業務費用支出	23,000,461
人件費支出	8,546,970
物件費等支出	13,409,597
支払利息支出	442,003
その他の支出	601,891
移転費用支出	43,278,966
補助金等支出	9,142,134
社会保障給付支出	32,477,648
他会計への繰出支出	1,591,000
その他の支出	68,184
業務収入	72,788,575
税金等収入	48,823,246
国県等補助金収入	16,598,954
使用料及び手数料収入	2,678,050
その他の収入	4,688,325
臨時支出	63,326
災害復旧事業費支出	63,326
その他の支出	-
臨時収入	27,238
業務活動収支	6,473,060
【投資活動収支】	
投資活動支出	9,490,671
公共施設等整備費支出	5,037,225
基金積立金支出	3,166,317
投資及び出資金支出	130
貸付金支出	1,287,000
その他の支出	-
投資活動収入	5,732,403
国県等補助金収入	3,066,821
基金取崩収入	1,156,575
貸付金元金回収収入	1,287,839
資産売却収入	163,010
その他の収入	58,157
投資活動収支	△ 3,758,269
【財務活動収支】	
財務活動支出	5,973,699
地方債償還支出	5,971,664
その他の支出	2,036
財務活動収入	2,383,789
地方債発行収入	2,383,789
その他の収入	-
財務活動収支	△ 3,589,911
本年度資金収支額	△ 875,120
前年度末資金残高	7,939,881
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	7,064,761
前年度末歳計外現金残高	225,497
本年度歳計外現金増減額	19,980
本年度末歳計外現金残高	245,477
本年度末現金預金残高	7,310,238

※ 千円単位での表示のため、端数処理（四捨五入）により計などが合わない場合があります。

貸借対照表の勘定解説

資産の部	
1 固定資産	
1 有形固定資産	
(1) 事業用資産	・ 庁舎、学校、福祉施設などの資産を計上(土地、建物、工作物等)
(2) インフラ資産	・ 道路、公園など社会基盤となる資産を計上(土地、工作物等)
(3) 物品 物品減価償却累計額	・ 現金や基金等以外の動産を計上 ・ 帳簿原価(取得価格等)が50万円以上のものを計上
2 無形固定資産	
・ 地上権・借地権などの用益物権、水利権などの無体財産権などを計上	
3 投資その他の資産	
(1) 投資及び出資金	・ 公営企業会計、第三セクター等に対する出資金、出えん金を計上 ・ 市場価格のある有価証券は年度末の時価を算出し計上 ・ 市場価格のない出資金等については簡易的に実質価格を算出し計上
(2) 投資損失引当金	・ 出資金のうち連結対象団体及び会計(出資割合が25%以上)において、実質価格が取得価格の30%以上低下した場合に両者の差額を計上
(3) 長期延滞債権	・ 収入未済額のうち、前年度以前に発生した債権を計上
(4) 基金	・ 減債基金及び財政調整基金以外の基金の年度末残高を計上 ・ 減債基金及び財政調整基金については、有価証券分(原資を確保し利息を運用するなど固定性の高いもの)の年度末残高を計上
(5) 徴収不能引当金	・ 長期延滞債権に計上される債権のうち、過去5年間の平均不能欠損率を用いて徴収不能となる見込み額を計上
2 流動資産	
(1) 現金預金	・ 現金の年度末残高を計上
(2) 未収金	・ 収入未済額のうち、現年度に発生した債権を計上
(3) 基金	・ 減債基金及び財政調整基金のうち現金分の年度末残高を計上
(4) 棚卸資産	・ 普通財産のうち公売などにより売却を進めている資産の価格を計上 ・ 個別の不動産評価などにより売却予定価格を算出しているものはその価格、その他については地域・地目ごとの平均価格を用いて時価を算出し計上
(5) その他	・ 上記及び徴収不能引当金以外の流動資産を計上
(6) 徴収不能引当金	・ 未払金に計上される債権のうち、徴収不能となる見込み額を計上
負債の部	
1 固定負債	
(1) 地方債	・ 地方債残高から翌年度償還予定額を控除した額を計上
(2) 長期未払金	・ 債務負担行為のうち、既に確定したとみなされるものについて、期末日より1年以内の支出予定額を除いた額を計上
(3) 退職手当引当金	・ 年度末に特別職を含む全職員(年度末退職者を除く)が普通退職した場合の退職手当支給見込額から翌年度退職手当の支払予定額を控除した額を計上
(4) その他	・ 上記以外の固定負債を計上
2 流動負債	
(1) 1年以内償還予定地方債	・ 地方債の翌年度償還予定額を計上
(2) 未払金	・ 債務負担行為のうち、既に確定したとみなされるものについて、翌年度支払い予定額を計上
(3) 賞与等引当金	・ 翌年度6月に支払うことが予定される期末手当及び勤勉手当のうち、今年度負担相当額を計上
(4) 預り金	・ 第三者から寄託された資産に係る見返負債を計上(歳計外現金残高)
(5) その他	・ 翌年度に支払うことが予定される退職手当など、上記以外の流動負債を計上
純資産の部	
1 固定資産等形成分	・ 資産形成のために充当した資源の蓄積額 固定資産－(長期延滞債権＋投資損失引当金＋徴収不能引当金) ＋流動資産のうち短期貸付金＋基金＋棚卸資産)
2 余剰分(不足分)	・ 消費可能な資源の蓄積額 上記以外の資産(現金預金等)－負債

行政コスト計算書の勘定解説

純経常行政コスト	
業務費用	
1 人件費(人にかかるコスト)	
(1) 職員給与費	・ 職員等に対して支払われる給与費等から、退職手当と前年度賞与引当金を控除した額を計上
(2) 賞与引当金繰入額	・ 当年度の貸借対照表に計上した賞与引当金を計上
(3) 退職手当引当金繰入額	・ 退職手当引当金として新たに繰り入れた金額を計上
(4) その他	・ 委員や嘱託職員に支払われる報酬等を計上
2 物件費等(物にかかるコスト)	
(1) 物件費	・ 人件費、維持補修費、扶助費、補助費等以外の消費的性質の経費を計上(賃金、旅費、交際費、需用費、役務費、備品購入費、報償費、委託料、使用料及び賃借料、原材料費等)
(2) 維持補修費	・ 公共施設等の効用を保全するための経費を計上
(3) 減価償却費	・ 有形固定資産(土地などの非償却資産を除く)の帳簿原価から残存価格を差し引いた部分を、その耐用年数の各期間に配分する費用(ここでは、貸借対照表に計上された有形固定資産の減価償却額)を計上
(3) その他	・ 上記以外のコストを計上
3 その他の業務費用(その他のコスト)	
(1) 支払利息	・ 地方債にかかる利息を計上
(2) 徴収不能引当金繰入額	・ 市税や使用料などのうち、徴収不能見込額として新たに貸借対照表に計上した金額から、当年度の不納欠損処理額を控除した額を計上
(3) その他	・ 上記以外のコストを計上
移転費用(移転支出的なコスト)	
(1) 補助費等	・ 地方公共団体から他の地方公共団体もしくは民間に対し、各種の行政上の目的をもって交付する経費を計上
(2) 社会保障給付	・ 地方公共団体が各種の法令(生活保護法、児童福祉法、老人福祉法等)に基づき被扶助者に対して支給する費用及び地方公共団体が単独で行っている各種扶助の支出額を計上
(3) 他会計への繰出額	・ 特別会計など他会計に対する繰出額等を計上
(4) その他	・ 上記以外のコストを計上
経常収益	
1 使用料及び手数料	・ 使用料、手数料の調定額を計上(滞納繰越分を除く)
2 その他	・ 財産収入、預金利子、受託事業収入、雑入などの調定額を計上(滞納繰越分を除く)
臨時損失	
・ 災害復旧に要する経費や資産の除却や売却により生じた損失などを計上	
臨時利益	
・ 資産の売却により生じた利益などを計上	

純資産変動計算書の勘定解説

純行政コスト	・ 行政コスト計算書の純行政コストを計上
財源	
税収等	・ 市税、地方交付税、分担金、負担金などの調定額を計上
国県等補助金	・ 国庫支出金及び県支出金の調定額を計上
固定資産等の変動(内部変動)	
有形固定資産等の増加・減少	・ 有形固定資産及び棚卸資産の購入・整備による増加及び売却・除却、減価償却による資産の減少額を計上
貸付金・基金等の増加・減少	・ 基金への新たな積立てによる増加や取崩しによる減少額等を計上
資産評価差額	・ 棚卸資産や有価証券などの評価額の見直しによる差額を計上
無償所管替等	・ 寄附などにより無償で資産を受け入れた場合の資産評価額を計上
その他	・ 上記以外の変動額を計上

資金収支計算書の勘定解説

1 業務活動収支	
業務支出	・ 人件費、物件費等、社会保障給付、補助金等、地方債・一時借入金の支払利息、他会計への繰出などの経常的な支出を計上
業務収入	・ 地方税、地方交付税、使用料・手数料、寄附金、諸収入や投資活動支出に充当されない国県補助金等、分担金・負担金などの経常的な収入を計上
臨時支出	・ 災害復旧に要する支出を計上(資産計上される支出を除く)
臨時収入	・ 臨時支出の財源となった国県等補助金や分担金などを計上
2 投資活動収支	
投資活動支出	・ 地方公共団体が自ら公共資産を整備する公共資産等整備支出、基金積立金支出、投資及び出資金支出及び貸付金支出を計上
投資活動収入	・ 上記支出の財源となった国県等補助金、分担金・負担金などの収入、基金取崩収入、貸付金の回収収入及び資産の売却収入を計上
3 投資活動収支	
投資活動支出	・ 地方債の元金償還額を計上
投資活動収入	・ 地方債の発行収入を計上

平成28年度 財務諸表を活用した財政分析

平成28年度より統一的な基準により財務諸表を作成したため、これまで使用してきた各種指標と大きく変わっています。今年度については総務省の示すマニュアルに基づき各種指標を算定しました。

今後は統一された財務諸表が各地方公共団体において作成・公開が予定されていますが、現時点で公開されているものは少ないのが現状です。

今後、経年変化による分析はもちろん、全国の自治体が統一的な基準で財務諸表が作成されることから他の団体や類似団体平均との比較など、財政状況の的確な把握をするとともに、分かりやすい財務状況の公開をすすめてまいります。

1. 資産形成度

資産形成度とは、「将来の世代に残る資産はどのくらいあるか」という視点で分析するものです。

資産に関する情報は、決算書に添付されている財産に関する調書などがありますが、面積や数量といったもので資産の価値の情報を得ることはできませんでした。財務諸表のうち貸借対照表では、資産の部において市の資産価値の情報を一覧表示しており、これを利用して以下の指標を算定します。

(1) 市民一人当たりの資産額

貸借対照表上の資産の総額から市民一人当たりの資産額を算定します。この指標を他の団体と比較することで、当市の資産形成の度合いを図ることができます。

			一般会計等	全体	連結
資産総額	(百万円)	A	235,135	262,508	267,717
年度末の人口(3月31日時点)	(人)	B	89,265	89,265	89,265
市民一人当たりの資産額	(万円)	A/B	263.4	294.1	299.9

(2) 歳入額対資産比率

貸借対照表上の資産合計額が何年分の歳入に相当するかを表すもので、この指標を他の団体と比較することで、当市の資産形成の度合いを図ることができます。

			一般会計等	全体	連結
資産総額	(百万円)	A	235,135	262,508	267,717
歳入総額(前年度末資金残高を含む)	(百万円)	B	51,346	75,415	88,872
歳入額対資産比率	(年)	A/B	4.6	3.5	3.0

(3) 有形固定資産減価償却率

有形固定資産のうち、償却資産(建物や工作物など)の耐用年数に資産の取得からどの程度経過しているかを示します。この指標が高いほど、公共施設等が老朽化している傾向にあり、施設の更新・整備の緊急性の目安となります。

			一般会計等	全体	連結
減価償却累計額	(百万円)	A	180,153	203,365	204,282
取得価格(再調達価格)	(百万円)	B	300,006	343,495	344,678
有形固定資産減価償却率	(%)	A/B	60.0	59.2	59.3

2. 世代間公平性

世代間公平性とは、「将来世代と現世代の負担の分担は適当か」という視点で分析するものです。

この指標は、貸借対照法上の資産、負債、純資産の対比によって明らかにされるものです。他に世代間公平性を表す指標としては、財政健全化法における将来負担比率がありますが、将来世代と現世代との負担のバランスや、どのように推移しているかを端的に把握するために、以下の指標を用います。

(1) 純資産比率

資産のうち市民の持分割合を示すと同時に、固定資産が過去世代の抛出によるのか、将来世代の負担によるのかを判断する指標です。この比率が高いほど、現世代(過去の世代)の抛出が高く、将来の世代への負担が低いこととなります。

			一般会計等	全体	連結
純資産合計	(百万円)	A	195,109	210,465	211,690
資産総計	(百万円)	B	235,135	262,508	267,717
純資産比率	(%)	A/B	83.0	80.2	79.1

(2) 社会資本形成の世代間負担比率(将来世代負担比率)

資本形成の結果を表す資産のうち、地方債による形成割合を見ることにより、今後の世代によって負担する割合を見ることができます。この比率が高いほど、将来の世代が負担する割合が高いことを表します。

			一般会計等	全体	連結
地方債残高	(百万円)	A	29,410	36,421	39,294
資産総計	(百万円)	B	235,135	262,508	267,717
社会資本形成の世代間負担比率(将来世代負担比率)	(%)	A/B	12.5	13.9	14.7

3. 持続可能性(健全性)

持続可能性(健全性)は、「市財政に持続可能性があるか(どのくらい借金があるか)」という視点で分析するものでこの視点は財政運営の本質的な視点であり、財政健全化法による健全化比率(実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率)による分析も行いますが、財務諸表でもそれに追加して有用な情報を提供できます。

(1) 市民一人当たりの負債額

貸借対照表上の負債総額から市民一人当たりの負債額を算定します。この指標を他の団体と比較することで、将来世代への負担の度合いを図ることができます。

			一般会計等	全体	連結
負債総額	(百万円)	A	40,026	52,042	56,027
年度末の人口(3月31日時点)	(人)	B	89,265	89,265	89,265
市民一人当たりの負債額	(万円)	A/B	44.8	58.3	62.8

(2) 基礎的財政収支(プライマリーバランス)

資金収支計算書から、借金にかかる収支(地方債元利償還額を除く歳出と地方債発行収入を除く歳入)のバランスを示す指標で、このバランスが均衡していればその年の行政サービスを借金などの将来世代への負担を増やすことなく、現役世代の税金などで賄えていること示しています。

			一般会計等	全体	連結
歳入総額(前年度末資金残高を除く)	(百万円)		47,348	68,457	80,932
(除外)	地方債発行収入	(百万円)	△ 1,488	△ 1,788	△ 2,384
	財政調整基金等取崩額	(百万円)	0	0	0
歳出総額	(百万円)		△ 48,401	△ 69,463	△ 81,807
(除外)	地方債元利償還額	(百万円)	4,861	5,505	6,414
	財政調整基金等積立額	(百万円)	1,844	1,846	1,846
基礎的財政収支(プライマリーバランス)	(千円)		4,163,746	4,557,579	5,000,636

(3) 債務償還可能年数

債務の償還能力を示す指標で、償還財源の上限額を全て債務償還に充当する場合に、何年で現在の債務を償還できるかを表します。この指標が低いほど、償還能力が高いことを表します。

			一般会計等	全体	連結
将来負担額 - 充当可能基金残高	(百万円)	A	5,014	5,014	5,014
業務収支 + 臨時財政対策債発行可能額	(百万円)	B	6,592	7,701	8,003
債務償還可能年数	(年)	A/B	0.8	0.7	0.6

4. 効率性

効率性は、「行政サービスは効率的に提供されているか」という視点で分析するものです。

行政の効率性については、施策評価や事業評価において個別に分析が行われていますが、行政コスト計算書では行政活動にかかる費用を発生主義に基づきフルコストとして表示するものであり、行財政の効率化を目指すために不可欠な情報を一括して分析することができます。

(1) 市民一人当たりの行政コスト

行政コスト計算書上の純経常行政コストから市民一人当たりの行政コストを算定します。この指標を他の団体と比較することで、行財政の効率性の度合いを評価する指標となります。

			一般会計等	全体	連結
純経常行政コスト	(百万円)	A	38,244	56,752	65,351
年度末の人口(3月31日時点)	(人)	B	89,265	89,265	89,265
市民一人当たりの行政コスト	(万円)	A/B	42.8	63.6	73.2

5. 弾力性

弾力性は、「資産形成等を行う余裕はどのくらいあるのか」という視点で分析するものです。

財政の弾力性については、一般的に経常収支比率(決算統計)等が用いられますが、純資産変動計算書を用いて弾力性の分析が可能となります。

(1) 行政コスト対税率等比率

資本形成を伴わない行政コスト(純経常行政コスト)に対して、どれだけが当年度の負担で賄われたかを判断する指標で、純経常行政コストに対する一般財源等の比率で算定されます。この指標が100%に近いほど資産形成の余裕度が低いとされ、100%を上回ると過去から蓄積された資産が取り崩されたことを示します。

			一般会計等	全体	連結
純経常行政コスト	(百万円)	A	38,244	56,752	65,351
一般財源等	(人)	B	41,208	60,035	68,702
行政コスト対税率等比率	(%)	A/B	92.8	94.5	95.1

6. 自律性

自律性は、「歳入はどのくらい税率等で賄われているか(受益者負担の水準はどうなっているか)」という視点で分析するものです。

これは市の財政構造の自立性に関するものであり、決算統計における歳入内訳や財政力指数などでも分析できますが、行政コスト計算書において使用料・手数料など受益者負担の割合を算定することにより分析することができます。

(1) 受益者負担割合

市のコストのうち、行政サービスの受益者が直接的に負担する割合を表します。この指標の経年比較したり、他の類似団体と比較したりすることで、市の受益者負担の特徴を把握することができます。

			一般会計等	全体	連結
経常収益	(百万円)	A	2,084	4,099	7,445
経常費用	(百万円)	B	40,328	60,851	72,796
受益者負担割合	(%)	A/B	5.2	6.7	10.2